

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

市の平均正答率は63%であり（県：66% 全国：64.7%）、やや県や全国を下回った。

- ① ■「話すこと・聞くこと」領域の「資料を用いた目的を理解する」に課題がある。（市：68.0% 県：73.0% 全国：74.9%）
- ② ■「読むこと」の領域では、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けること（思考・判断・表現）」に課題がある。（市：27.6% 県：33.8% 全国：34.4%）
- ③ ■「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（知識及び技能）」ことに課題がある。（市：49.1% 県：51.3% 全国：54.4%）
- ④ □「書くこと」の領域では、「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する（思考・判断・表現）」ことに関しては定着が見られる。（市：65.4% 県：64.7% 全国：56.6%）
- ⑤ □14問中11問で、無解答率が全国より低かった。また、そのうち無回答率0%が5問あり、自分なりの考えを持って書いている児童が多かった。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ① 調べたことをまとめて発表する際は、誰に何を報告するのか対象者や内容を明確にした上で、取り上げた資料の意図やねらいも含めて説明できるように指導する。
- ② 教材文等を用いた学習の中で、多くの情報から必要な情報を選択したり文章と図表を適切に関連付けたりする指導を行う。また、事実と考えとを区別して読解したり、図表の効果を吟味したりする活動を仕組む。さらに、書く活動においても、自分の考えを支えるものとしてふさわしい資料や事例を取り上げて書く習慣を育成するようにする。
- ③ 漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。その為に、国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れる。また、タブレット等で既習の漢字の習得を図っていく。言語能力の育成は必須であり、読書活動の推進も図る。
- ④ 国語科での言語活動において、書く活動を取り入れ自分の考えを表現させる学習を積み重ねてきたことが「書くこと」の成果につながっている。目的に応じて、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを考えさせることが重要である。
- ⑤ 児童が最後まで目的を見失わずに言語活動を遂行できるような授業づくりを心がけてきた。今後も、単元全体を見通した子どもの意欲につながる「めあて」や学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」を位置付けた授業を重ねていきたい。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

市の平均正答率は68%であり（県：70% 全国：70.2%）、やや県や全国を下回った。

- ① ■「変化と関係」の領域で「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる（思考・判断・表現）」に課題がある。（市：83.3% 県：85.8% 全国：86.7%）
- ② ■「変化と関係」の領域で、「速さを求める除法の式と商の意味を理解している（知識・技能）」に課題がある。（市：51.3% 県：53.7% 全国：55.8%）
- ③ ■「測定」の領域で「条件に合う時刻を求めることができる（知識・技能）」に課題がある。（市：85.1% 県：89.8% 全国：89.2%）
- ④ ■「図形」の領域で「構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる（思考・判断・表現）」に課題がある。（市：41.2% 県：46.2% 全国：46%）
- ⑤ ■「数と計算」の領域で「商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる（知識・技能）」に課題がある。（市：51.3% 県：55.6% 全国：55.%）
- ⑥ □「図形」の領域で「三角形の面積の求め方について理解している（知識・技能）」は全国平均を上回っている。（市：55.7% 県：53.7% 全国：55.1%）
- ⑦ □「データの活用」の領域は、概ね良好であり「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる（知識・技能）」は全国平均を上回っている。（市：91.2% 県：90.6% 全国：90.7%）
- ⑧ □16問中12問で、無解答率が全国より低かった。また、そのうち無回答率0%が3問あり、自分なりの考えを持って書いている児童が多かった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ① 図形の性質や構成要素に着目して、複合図形を構成する力が不足していると考えられる。具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにするための操作活動を取り入れ、定着を図る。
- ② 三角形などの図形の求積はよく理解できている。半面、図形の構成についての見方・考え方をはたらかせ、数の意味や公式の意味などを図形と関連付けて説明することができていないと考えられる。図を基に式や図に表したり、図と関連付けて式を解釈したりする活動を様々な場面で取り入れ、説明する活動を設定する。
- ③ 「速さ」の概念の理解がやや不十分だと考えられる。時間や道のりとの相関関係を、日常生活の場面に置き換えたり、タブレット等活用したりして児童がイメージできるような指導を行う。
- ④ 「500mを歩くのに7分間かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を求める」等、導いた解答を適応したり、活用したりすることに課題があると考えられる。日常の授業においても、振り返りの際に、類似の問題に取り組みせたり、問題を児童に作らせたりして強化していく。
- ⑤ 「数と計算」においては、「8人に4Lのジュースを分ける」等、商が1より小さくなる「等分除」問題で、安易に $8 \div 4$ とする傾向があり、場面から数量の関係を捉えて立式することに課題がある。図や言葉を使ってどのような場面か題意を把握した上で立式するように指導する。
- ⑥ 「測定」の時刻の問題は2年生の問題であるにも関わらず、正答率85%であった。15%の児童が理解していないと考えられる。個別のフォローアップで対応していく。
- ⑦ 「データの活用」は前回の改善方策「複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断できない事からについて判断するためのグループでの話し合い活動」が効果があったと思われる。今後も継続して取り組むことでレベルアップを図っていく。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

【問題形式から】全14問（選択式6問・短答式4問・記述式4問），市平均正答率62%で，県(-4.0)全国(-2.6)であった。前回，短答式は全国が56.8%であるのに対して49.3%と7.5%低くなっていたが，今回は，72.4%と差は2%と改善がみられた。一方，記述式の正答率は52.9%であり，県(-4.3)全国(-3.1)に比べて下回っている。また，短答式も61.1%で，県(-4.9)全国(-3.8)と差が開いた。条件をもとに作文したり，自分の考えを述べたりする記述式や，類似の選択肢から適切に取捨選択する問題で差が開いたと思われる。

【領域から】

全領域で県平均，全国平均を上回ることができなかった。特に「読むこと」領域においては，市43.3%で，県(-5.8)全国(-5.2)と顕著である。また，「書くこと」領域においても，53.5%で，県(-4.6)全国(-3.6)と課題が残った。全国平均ほぼ同レベルであった領域は「話すこと・聞くこと」であり，市79.0%で県(-3.1)全国(-0.8)であった。「伝統的な言語文化」においては，前回の改善方策の効果が見られ，72.7%で，県(-2.8)全国(-2.4)と前回の調査よりやや改善が見られた。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- 「読むこと」領域において，今後重点を置いて指導すべきことは「文脈の中における語句の意味を理解すること」「場面の展開，登場人物の心情や行動に注意して読み，内容を理解すること」「文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分の考えをもつこと」が挙げられる。
- 文章の全体像をつかむことが重要である。今回，題材が『吾輩は猫である』でやや文語調で文脈をつかむのが難しかったと思われる。名作に触れる読書活動を習慣づけたり，注釈を手掛かりに全体像をイメージしてから読んだりするスキルも身に着けさせる必要がある。
- 「文脈の中における語句の意味を理解すること」を育成するためには，普段の授業から，語彙力を高めていくようにすることと，その語句に代替する語句を探させたり，穴埋め方式にして適切な語句を考えさせたりする指導も有効である。
- 「書くこと」領域においては，文章を構成する力を指導していく必要がある。これは「文章の全体像をつかむ」読解にも繋がる。その為に，作文指導において，段落構成を考え，見通しを立てて書かせたり，書いた文章を互いに読み合わせたりして，文章の構成の工夫を考える活動に取り組みせる必要がある。さらに，試行錯誤が容易にできることから，タブレットの活用も有効だと考える。
- 作文指導は，一朝一夕にはいかない面もあり，小学校と連携して系統的な指導をする必要もあると考えられる。

【 杵 築 市 】

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

中学校：数学

全問題数は16問（選択式2問・短答式9問・記述式5問）であり、平均正答率55%、県（-2.0）全国（-2.2）とやや下回った。

- ・全国、県と比較して正答率が上回る。→4問
- ・全国と比較して正答率が上回る。→0問
- ・県と比較して正答率が上回る。→0問
- ・全国、県と比較して正答率が下回る。→12問

◆領域別では、「資料の活用」の正答率で、県・全国平均を上回る。

◆観点別では、「数学的な技能」の正答率で、全国平均と同等。

「数学的な見方や考え方」の正答率で、県平均と同等、全国平均を上回る。

◆問題形式別では、「選択式」53.1%で、全国平均を上回る。

その他「記述式」「短答式」は県平均、全国平均を下回る。

◇無解答率が県・全国と比較して多い。10問で県・全国を上回る。

特に課題のある問題（領域：問題形式）〔全国平均と比較〕

市平均正答率が特に低い問題

- ・四角形ABCDが平行四辺形になることを平行四辺形になるための条件を用いて説明する設問。（図形：記述式）〔-14.2P〕
 - ・中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ設問。（図形：選択式）〔-5.9P〕
- 「図形」領域が課題である。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

○「数量や図形などについての知識・理解」に関する問題においては、数学用語や重要事項、公式の意味と理解を深められる指導、またはそれらを想起する場面を増やすような指導をする。特に、角度と扇形の弧の関係等、基礎的な知識理解を深めるようにする。

○9(1)「平行四辺形になるための条件を用いて説明する設問」では、正答率30.1%と、全国と比べ14ポイント下回った。証明の根拠として用いられている三角形の合同条件や、平行四辺形の特徴の理解を深めるために、具体物の操作活動を取り入れたり、タブレット等ICTを活用したりする学習が有効だと考えられる。なお、説明の仕方を選択する問題でもあった為、多様な考えを交流する学習場面も必要であろう。

○9(3)「 $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでも言えることを書く設問」でも、正答率が全国と比べ5.6ポイント下回った。「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現する」趣旨から、数学的な見方考え方を働かせる必要がある。その為には、異なる視点から図形を分析する習慣を身につけるために、ペアやグループ学習を通して異なる視点を発見させるよう仕組むことも考えられる。

○「数と式」6(3)「四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であることを説明する」設問も、全国に比べ4.5ポイント低かった。数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるようにしたい。その為には、説明内容(事実・方法・理由)を区別できるようにし、説明の基本形を活用できるように指導したり、授業で、生徒が説明したり教え合ったりする場面を設定し、論理的な説明の組み立てに慣れさせたりする。

○前回課題であったヒストグラムの読み取り等「資料の活用」は、取り組みの成果が表れ、県平均、全国平均を上回った。引き続き、指導を強化・維持していきたい。